



リハビリ用に揃えたトレーニング機器。



高齢の女性を自然と笑顔にする障がいを持つ子。



住民たちが集合して、さまざまなイベントを開催。

## 「この町に身を置き、地域のために事業として取り組んでいきたい」

STEP 3 今後の展望  
介護認定を受けた人が元気になるれば、社会全体がさらに活性化される

次第に、近所の小学生が遊びに来た

そこで、日本政策金融公庫から資金繰りが安定するまでのつなぎ資金を融資していただいたんです。そのお陰で資金繰りが改善され、翌年からようやく軌道に乗りました」  
デイサービスを中心に経営が安定すると、橋本さんは理学療法士としての真骨頂を発揮する。この施設は天井が高く、四方に窓がある。一年中暖かな陽射しが入り、冬も快適に過ごせる。リハビリテーションを行うには、こうした開放感のあるワンフロアの空間が良いという考えで、物件選びにこだわったのだ。  
10人前後が同時にリハビリできるフロアで、要支援、要介護と認定された高齢者が、橋本さんと一緒に社会復帰を目指す。介護施設の多くが、現状維持に力を注ぐが、りぶらすはあくまでも改善を目標とする。  
さらにこのスペースを利用して、さまざまな催しを開き、地域の人たちと介護認定を受けた高齢者が交流する機会をつくった。障がいを持つ子どもの受け入れも開始した。



### 会社概要

所在地：宮城県石巻市相野谷字今泉前 29-3  
業種：介護サービス業  
設立：2013年1月  
従業員数：10名

# 一般社団法人 りぶらす

<http://rilink.is-mine.net>

地域全体を巻き込んだリハビリ活動で、既存の介護事業の常識を打ち破る。運営する施設では介護認定を受けた高齢者のなんと1/4が回復。この奇跡を生んだのは、震災で傷ついた町に突如現れたひとりの理学療法士の信念だった。

## STEP 1 創業のきっかけ 被災地での高齢者との触れ合いが 起業を決意させた

東日本大震災から数カ月後、理学療法士の橋本大吾さんはボランティアチームを立ち上げた。被災者の心身のケアを目的に、宮城県へ向かい避難所をまわった。地区のほとんどが壊滅した石巻市雄勝では、苛酷な状況に苦しむ人々のひどく疲弊した様子を見て心を痛めた。沿岸部の名取市閑上では、津波が残した爪痕を目の当たりにしてただ呆然と立ち尽くした。  
やがて避難所が閉鎖され、被災者の多くは仮設住宅に移転する。石巻市においては、6〜7000戸の仮設住宅が建てられ、そのうち1500戸ほどを橋本さんらボランティアチームが支援することになった。このとき、橋本さんを起業家の道へと傾かせる、大きな出来事があった。

「この地で起きた哀傷を象徴する人に出会いました。震災前、その方は80代前半にもかかわらず、とても明るく精神的に畑仕事をされていたそうです。ところが震災後、生活環境がガラリと変わってしまった。仕事ができなくなった喪失感から精神を病み、家の中にこもりがちになっていったんです。しばらくすると足腰の筋力が衰えて1日に何度も転倒してしまう。入退院を

り、高校生がボランティアで手伝いをしたりして、この町に住むたくさんの人が介護に対する意識、知識を高めていく。

「ここには目が見えず、話すこともできない子がいます。気の毒だと思いついで避けてしまいがちですよ。その子がこの施設では一番のアイドルなんです。この子がいることで地域のみならず、彼もみんなに懐く。ここに通う高齢者も彼と会うことが楽しみになる。この子にも地域社会を明るく照らす役割があるんですよ」  
高齢者と障がい者がともに過ごす施設は、全国に広がっているという。何も知らない人が窓から覗いたら、笑顔に溢れたこの場所が介護施設だとは思わないだろう。

自信を失い、やりたいことも伝えられなかった高齢者たちは、今では互いを励まし合いながら、初めは橋本さんがつくったリハビリメニューをこなしていき、次第に自分たちでトレーニングを行うようになっていく。この光景が見られる日を橋本さんは期待していたのだ。

橋本さんの試みは、介護の常識を覆す。要介護と認定された高齢者の実に25%の人が改善し、元気になって、この施設を卒業している。  
「介護認定を受けた人が社会復帰をす

繰り返しているうちに、その人は亡くなられてしまいました。このような方を支える仕組みがありません。ボランティアに気付けられたんです。ボランティアでは限界がある。この町に身を置き、事業として取り組んでいかなければならないと考えたのが、起業のきっかけでした」

## STEP 2 事業スタート 「現状維持」ではなく「改善」が目標。 一人ひとりと真剣に向き合う覚悟

橋本さんは、2011年12月で埼玉のリハビリ施設を退職し、石巻市へ移住。ボランティア活動に専念。その翌年、前述の方と出会い、事業化を決断。志とともにする人材を募集し、移動に必要な車を購入、リハビリに必要な設備を用意した。とりわけ物件探しには力を入れた。

13年1月に一般社団法人りぶらすを設立し、準備が整った5月から本格的に事業を開始。だが当初の想定とは裏腹にすぐに資金繰りで苦勞する。

「内閣府から創業支援金を頂き、運転資金に当てました。ところが当初の見込みが甘かったです。最初から大勢の方が利用してくれるはずがありません。順調に利用者が増えても介護保険事業の場合、入金があるのは2カ月後で、資金繰りにすごく苦勞しました。

るのは不可能だというのは間違った知識です。私たち介護にかかわるすべての専門家は、生きがいを見つめるためのお手伝いなんです。心と身体の双方をケアし、元気になってもらう。回復する人がたくさんいることを社会に伝えていきたいんですよ」

### Point of note

#### ■ 理学療法士の仕事とは

リハビリテーションは、「全人的な復権」と訳されることがある。理学療法士は、年齢による衰えや障がいを持って日常生活に支障をきたしている人に対して、肉体的、精神的のケアを医学的根拠に基づいて行う。そのため、運動のみならず、精神面の援助にも技術を要する。



論理的に骨、筋肉の動きを解説する橋本さん。

Profile



一般社団法人  
りぶらす/  
スタジオぶらす  
代表理事  
橋本大吾さん

1980年生まれ。茨城県鹿嶋市出身。理学療法士。2011年12月に埼玉県から宮城県石巻市へ移住。13年、石巻市河北地区にてリハビリテーション複合施設を開設。